



- 体育会名：関西学院大学体育会学生本部
- 創部年：1912年(明治45年)
- 2025年度会員数：35人(4年9人、3年13人、2年13人)

- 同窓倶楽部名：関西学院大学体育会学生本部同窓倶楽部  
\* 関西学院同窓会 公認団体
- 同窓倶楽部通称：体育会本部 OBOG 会
  - 設立年：不詳
  - 会員数：約 300 名

\* 物故者含む

## 体育会学生本部の歴史及び活動史

「体育会」の前史として、戦前の「運動部」、戦後の「運動総部」がある。

「運動部組織体の起源」を探ると、1912(明治45)年に神学部・高等学部からなる学生会(関西学院専門学生会)が発足し、学生会に「宗教部」「学芸部」「運動部(武芸会、庭球会、野球会、端艇会)」「社交部」が組織された。

運動部は、大正半ばから29年の上ヶ原キャンパスへの移転後も飛躍的な発展を遂げたが、40年に太平洋戦争が勃発し、戦争遂行の中で課外活動は衰退した。戦時体制の中で学生会は文部省の指令で41年に報国団に改組され、従来の運動部は鍛錬部(競技科、武道科)となった。戦後、報国団は解散し、学生会が再編成され46年、運動総部が発足した。

その後、58年に運動総部から体育会に改称されて現在に至っており、2012年に体育会創立100周年の記念式典を行った。

発足当時の運動部は4部であったが、49年には26部(約860人)、58年には35部(約1300人)、60年には37部(約1500人)と、部数・体育会員数ともに順調に増加してきた。しかし、70年代に入ると大学紛争等の影響もあり、体育会員数は約950人まで減少した。その後、90年代に入り女子会員の増加とともに体育会員数が再び増え始め、2000年には約1500人(うち女子約400人)となり、12年には42部、約2200人(うち女子約600人)となっている。

## 体育会主催行事の歴史

### 【総合関関戦】

1978年から毎年、関大とホームを交互にしながら開催している。2013年で第36回を数

え、関学の5連勝で通算成績は関学の19勝16敗(第30回は麻疹のため中止)となっている。両大学の試合は「関関戦」の名のもとに愛され、ともに輝かしい歴史を持ち、よき友、よきライバルとして日本の学生スポーツをけん引してきた。70年代に入ると両大学の戦績は振るわなくなり、学生スポーツの振興や戦力向上等を目指して総合関関戦が始まった。総合関関戦のように、同じとき、同じ会場で約30種目の競技を対抗戦として開催するのは、国内でも最大規模のものである。

#### 【体育会覇業交歓】

毎年、大学祭期間中の11月3日(文化の日)あたりに、中央芝生で全体育会員が出席し、各部の1年間(前年11月～10月)の全国制覇、関西制覇などの覇業を称える体育会最大の行事である。大学紛争までは、学院・同窓会・学生共催の記念祭行事の一環として行われていたが、紛争以降は大学祭期間中に行われている。

54年から、全国制覇を成し遂げた最高の部に、運動部代表顧問であった故那須生平教授の多年の功績を称えて設けられた「那須杯」が授与されている。また64年からその年度の部の戦績、まとめ、部員の態度などを統合して最高の部に、初代体育会長である故池内信行教授の多年の功績を称えて設けられた「池内杯」が授与されている。近年はさらに、特別賞、新人賞そして体育会同窓倶楽部から児玉杯、監督会から監督会賞などが授与されている。

#### 【体育会新人入会式】

毎年、新しく各部に入部した体育会員全員を対象に夏休み前に開催している。体育会への入部を歓迎するとともに、体育会員としての自覚を促すことを目的としている。

#### 【フレッシュマンキャンプ】

63年から毎年原則1泊2日で実施している。新入部員を対象にし、各部幹部学生を含め約700人が参加している。関学体育会の歴史と現状についての講義、新入部員同士や各部幹部学生とのディスカッションを通して、体育会員としての自覚や体育会員間の連帯意識の涵養を目的としている。

#### 【リーダーズキャンプ】

65年から毎年原則として1泊2日で実施している。新しく主将、主務に就任した各部の幹部学生等を対象に、リーダーシップ、チームワークなど部運営についての知識の吸収と、それを発揮する方法等についての講義とディスカッションを中心に行っている。

今後1年間の体育会の活動スローガンを議論・決定し、スローガンのもと体育会員が一致団結していくことを確認するとともに、幹部学生としての自覚と体育会の方向付けを議論する。

#### 【体育会功労賞授与式】

60年から毎年大学卒業式後の同日に開催している。勉学とスポーツ活動の両立を成しえた4年間の体育会活動で、特に優れた者の中から約10人を表彰する。

#### 運動施設等の充実の歴史

戦後に発行された機関紙「上ヶ原スポーツ(49～58年)」、「関学スポーツ(61年～現在)」で運動総部、体育会の活動を振り返ると、全国制覇・関西制覇の記事とともに「学生スポーツ」の在り方を論じる記事が数多く掲載され、また戦績を向上させるための諸施策などが論じられている。「運動施設の充実」「スポーツ能力に優れた学生の確保」「活動資金の確保」は、いずれも体育会全体にかかわる課題である。

「運動施設の充実」については、59年の関西学院創立70周年に、運動総部時代からの念願であった施設として新グラウンド(現・第2フィールド)、体育館、学生会館(現・旧学生会館)の整備が行われた。62年にはワンダーフォーゲル部の戸隠山小屋が供用開始。64年には体育会OBの寄付などにより、単なる合宿所ではなく関学のスポーツ、そして体育会員の精神的な道場としてのスポーツセンターが完成した。

84年には学内に点在していた9部の練習場・部室を収容した新学生会館が完成した。その後、学外施設のヨット部、ボート部、カヌー部の艇庫などが整備され、2000年にはミーティングルームなどを備えた宿泊数200人の新スポーツセンターやトレーニングセンターが完成した。

06年には総合体育館西側の新たな校地(6万㎡)に硬式野球場、アメリカンフットボール場、馬場・厩舎を移転し、07年には第2フィールドのラグビー場、陸上競技場を全面改修。08年には上ヶ原浄水場の土地(2万3000㎡)にサッカー場、硬式テニス場を移転した。そして、関

西学院創立125周年記念事業の一環として14年には総合体育館の全面改修を行った。

以上のように、ほとんどの部は上ヶ原キャンパスに練習場が確保・整備され、勉学とスポーツ活動の両立が可能な環境が整っている。

「スポーツ能力に優れた学生の確保」は90年代に始まり、スポーツ選抜入試として徐々に拡大され、現在では大学全学部の11学部で実施している。

「活動資金の確保」は「スポーツ活動支援募金」として、OB・OGの寄付金を受け入れる募金システムが完成している。

#### 現在の体育会学生本部の活動内容

体育会では、専任教員から選出された会長、副会長、各部の部長が、体育会及び各部の管理運営にかかわるとともに、体育会部長会を年に数回開催して重要事項を審議決定している。また、専任教職員から選出された数名の体育会幹事は、体育会学生本部にかかわる日常的な管理運営に関与している。

体育会学生本部は、会計・渉外・企画・庶務および編集の5部門から構成され、体育会42部の代表として活動している学生執行機関である。本部員数は13年時点で約40人。体育会学生本部長は、体育会正会員の代表であり、体育会全体を統括しながら、本部員とともに前述の体育会行事を企画運営している。そして体育会幹部会議(各部主将・主務)を招集し、重要事項を審議決定している。また学内の活動だけでなく、他大学の体育会や地元地域との交流、災害募金活動など社会貢献活動にも積極的に取り組んでいる。

編集部は、体育会機関紙「関学スポーツ」を年5回発行するほか、体育会卒業アルバムの作成、ホームページによる「関学スポーツ」や各部の試合結果などの発信も行い、広報機関としての幅広い活動を担っている。

11年には「関学スポーツ」創刊50周年を記念して、「関学スポーツ」縮刷版(1961～2011年)、「上ヶ原スポーツ」復刻版(1950～58年)を発行した。

参考資料:関西学院学生会抄史、上ヶ原スポーツ。関学スポーツ

